

## 鳥取市水道事業審議会 令和6年度第2回会議 会議録

### 1 開催日時

令和6年11月21日（木） 午後2時から午後4時10分まで

### 2 開催場所

鳥取市水道局 3階会議室

### 3 出席委員

安部裕子、有田裕、石黒智、牛尾柳一郎、鈴木敏、高部祐剛、谷本由美子、戸苅丈仁、外山照野、西原牧夫、福山裕正、松長俊和、松原雄平、山下葵、山根滋子、湯口夏史（計16人、五十音順・敬称省略）

### 4 事務局

武田行雄（水道事業管理者）、川戸敏幸（水道局副局長）、渡辺寛存（次長兼総務課長）、中村賢司（次長兼給水維持課長）、青木達矢（経営企画課長）、大島徳明（資産管理課長）、八木谷義人（料金課長）、谷口洋一（工務課長）、楮原昌宏（浄水課長）、木本裕治（南地域水道事務所長）、末石匡昭（西地域水道事務所長）、長石和久（総務課長補佐兼財務係長）、横原慎吾（経営企画課長補佐兼経営係長）、山本信二（総務課総務係長）

### 5 議題

（1）令和5年度決算について

（2）鳥取市水道事業長期経営構想(2025-2035)(案)について

～全体概要と財政収支計画～

### 6 配布資料

- ・ 日程
- ・ 議題（1）関連資料
- ・ 議題（2）関連資料

### 7 会議の経過

---

・ 開会

(川戸副局長)

ただいまから鳥取市水道事業審議会令和6年度第2回会議を開催いたします。本日はお忙しい中、本審議会に御出席をいただきましてありがとうございます。本日の会議におきましては土師委員、そして、福田委員のお二人から欠席の連絡を受けております。また、谷本委員につきましては、まだお見えではございませんけれども、現時点で委員18人中15名と半数以上の出席をいただいておりますので、鳥取市水道事業審議会条例第6条第2項の規定によりまして会議が成立していることを御報告申し上げます。

・ 会長挨拶

(松原会長)

水道審議会の会長を仰せつかっております松原でございます。委員の皆様にはいつもどおり、お時間の始まる前にですが、御集合いいただきまして、また、お忙しい中、お時間を調整いただきましてありがとうございます。11月も半ばに入っております、皆様にはもう12月、年の瀬がすぐそこに来ている、そういう状況にあらうかと思いません。また、一気に気候のほうも冷え込みが厳しくなりまして、冬の到来を感じていると、そういう時候かなと思っております。

そういう中で、今日は第2回目の会議でございます。皆様には資料がお届けになっているかと思いますが、今日も2時間ほど皆さんのお時間頂戴いたしまして審議をいただくということになろうかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

・ 資料の確認

---

議 題 (1) 令和5年度決算について

・ 事務局議題説明 1

・ 議事 1

(戸苅委員)

9ページの震災時応急給水拠点整備箇所について、応急給水拠点と応急給水施設はどう違いますか。

**(谷口工務課長)**

応急給水施設は、鳥取県庁、市役所等の災害対策本部が置かれる施設、鳥取赤十字病院、県立中央病院等の救急指定病院、人工透析に関連する病院です。2次整備では7か所整備を進めています。応急給水拠点は、住民の方が災害時に避難される指定避難箇所等です。消火栓の施設を流用して、応急的に蛇口のついた設備を設置して水を供給する施設です。

**(戸荻委員)**

イメージとして、応急給水拠点は避難所だと思えばよろしいですか。

**(谷口工務課長)**

大きくくるとそのとおりです。

**(戸荻委員)**

この応急給水拠点と応急給水施設は、上水道の2次整備である程度完了していますが、この場所の下水道の耐震化はどうなっていますか。例えば、避難所で上水道が整備されていても下水道が整備されていないから水が流せないというようなことがあり、両方一緒に整備する必要があると最近話題になっています。

**(青木経営企画課長)**

能登半島地震での被害を踏まえ、上下水道で一体となり、避難所や救急指定病院などに至る管路の耐震化の強化・加速化を図ることが、11月初めぐらいに新聞等にも掲載されています。上下水道一体となった耐震化計画を来年の1月末までに策定する必要がありますが、鳥取市の状況は、下水道部の担当課、災害時の司令塔になる危機管理課と上下水道一体となって整備する施設や箇所数などについて現在協議中です。上水道の方が整備が進んでいるイメージですが、上下水道個別で整備したこともあり下水道の整備状況については現在確認中です。

**(戸荻委員)**

避難所は災害担当部局が決め、下水道も避難所は最優先で整備する位置付けだと思われませんが、これだけ避難所の数がある中では、整備の順番など効率的にやっていく必要があると思います。上下水道一体化の耐震化計画を立てるにあたっては、すり合わせてやっていくようによろしくお願いします。

**(松長委員)**

4ページの内部留保資金の状況で、5年度末が22億7200万円ということですが、補填した22億461万5000円を決定した後にこの金額になるのでしょうか。令和9年度で内部留保資金が不足してくると書いてありますが、結局ここが不足すると料金改定等が必要になるということでしょうか。

(渡辺次長兼総務課長)

補填した後の残高ということになります。詳しくは議題2のほうで述べさせていただきます。

(鈴木委員)

15ページの叶水源池の自家発電は、停電時に自動的に稼働して、どのくらい持つものでしょうか。

それと、前回のPFASの説明の際に、鳥取市では検出されなかったということですが、8月20日頃の新聞で、鳥取県内で暫定値以下だけでも2か所で検出されたと報道がありました。このPFASの水質検査というのは今後も実施されるのでしょうか。

(楮原浄水課長)

発電機の稼働時間は手持ち資料が無いので正確な数字は出ませんが、必要量の燃料は常に貯蔵し、また、燃料を補給すれば稼働時間を延ばすことができます。(※補足：現在の自家発電機設備は最大で約15時間、新しい自家発電機設備は最大で約37時間分の燃料タンク容量がある。)

PFASの水質検査にあたっては、今後も国の方針に従い検査計画を立てていきます。

(石黒委員)

2ページの原因者工事の増で資本的支出が増えていますが、原因者工事なので、後でその分の工事費等は原因者からきちんと補填される、ということでしょうか。

耐震化について、耐震化が遅れていた簡易水道事業と合併したときに耐震化率が少し低下したけれども、現在は全国平均は上回った形で推移している、という理解でよろしいですか。

(渡辺次長兼総務課長)

そのとおりです。

・ 事務局議題説明2

・ 議事2

(鈴木委員)

内部留保資金の令和5年度と令和6年度のところで、1年前の審議会のときは令和6年度は大体21億7300万ぐらいの計画値でしたが、今回見ると18億1600万円ということで結構下がっています。どういう原因でこんなに下がってしまったのでしょうか。

(長石総務課長補佐兼財務係長)

令和5年度の建設改良費のほうを見ていただいたら令和5年度24億5200万円と、その隣の令和6年度はあくまで予算ベースですが33億4500万円と比べて少ない数字になっています。これは、令和5年度は台風などの関係で工事の進捗が少し遅れたということがあり、令和5年度の工事が少し令和6年度に繰越しになっているためです。また、以前の審議会の資料では、見込み値、計画値であった決算や予算が確定したことに加え、物価高の影響による建設材料費全体の増、企業債の借入額が令和5年度6年度全体で若干減少していることや、令和6年度に純損益が赤字になっていることなどが影響し、内部留保資金が減っています。

(高部委員)

1ページ目の左側の将来像（経営基本方針）、その下に3つの基本方針があり、経営基本方針の「すべてのお客さまに蛇口から直接飲める～」と訴えている文言が、おおむねこの下の施策の基本方針に対応していることが分かるのですが、唯一原則のこの前提が施策の基本方針のところから直接的に読み取れないかなと感じたところです。

例えば水道サービスの持続の(8)などが、こういった基本方針で水道局が不断の努力をすることで、安い水道サービスの維持に努めていると思いますが、(8)のところに、こうすることで単価が安い水道サービスの維持に努めます、など、安いに対応するような文言がこの施策の基本方針の中にあると、対応していることが分かりやすいかなと感じた次第です。

(青木経営企画課長)

平成30年に大改正された水道法では、清浄で、豊富で、低廉で、というのが基本的な考え方、目的の3原則となっています。安定的に水が送れる施設の更新、耐震化といったものが確保できた上での安く、ということと認識しています。

水道事業は装置産業と言われ大きな施設を、かなり長期的な計画で、先人達の時代からつくり上げてきたものです。ただ、水需要は低迷してきていますので、やはり施設的能力と需要が合ってきていない部分があります。そういった部分の適切な更新が一番コストを削減できるため、現状に合せた施設をしっかりと造り上げていくということを主眼としてコスト削減に取り組んでいます。事業全般にわたっては、小さいことからしっかりとコストダウンをしていき積み上げることが大事だということがあり、そういったことも普段から取り組んでいます。

ただ、策定の趣旨の中にありますが、物価上昇。水道事業の収入は料金を値上げする以外は増えていかず、支出だけが増えていく事業です。何とか支出を抑えながら将来にわたっても安定的に事業を運営することが全般的な趣旨であります。意見をしっかりと受けて、そういったものも書き込んでいきたいと思えます。

#### (高部委員)

今の状況を考えますと、確かに料金のほうを少し上げていくということは、もちろん考慮しないといけない状況ではあるとよく分かっていますが、水道局のほうでも、それは日々色々な努力をされた最終手段で、その中で水道サービスを維持され、新たなサービスも色々やられると思います。そういったことを考えると、水道料金のあり方を住民の方々により御理解いただくためにも、水道料金をできるだけ安く維持するためにも普通に見積りをしたのではなく、不断の努力をしているということが何かこう分かるような文章になっているとよりよいかと思った次第です。

#### (石黒委員)

用語の意味で、ダウンサイジングとは何ですか。

3ページの財政収支のシミュレーションで、令和9年頃から水道料金 13.5%程度の値上げでシミュレーションしていますが、その前提で内部留保金残高を6か月相当分約18億円を確保するとありますが、これは必ず18億円ないといけないということですか。15億円では駄目なのでしょうか。料金の値上げとなると、自助努力といいますかそういう形で説明しないと非常に難しいと思えますがどうでしょうか。

#### (谷口工務課長)

ダウンサイジングについてですが、水需要が全体として、今、減少してきています。過去に施工した水道管を更新するにあたり、給水人口が減れば、若干小さくできるかと思えます。小さくすることで材料代、それに伴い掘ったり埋めたりする諸資材の量、この辺りが減ることで全体の工事の金額を落としていくことをダウンサイジングとして進めています。

**(青木経営企画課長)**

内部留保資金というのは、企業債元金の返済の原資であり、工事を行う原資となります。その他、日々の支払いといった運転資金は10億円ぐらい必要です。また、災害起きた時でも工事費など一時的に支払う金額が必要で、そういったものを勘案して、前回の料金改定のときも同じような議論がありました。給水収益の半分ぐらいが適正な水準と決めて、18億円と示しています。

**(戸荻委員)**

2点質問します。本体冊子の52ページ、管路、施設の更新基準の検討と、概要版1ページ目の法定耐用年数超過管路率のところに、法定耐用年数超過管路率は、老朽化して更新が必要な管路の率という意味の指標だと思いますが、令和5年に23%だったのが、17年には36%に増えるとなっています。おそらくその間に耐用年数がくる管がスケジュール的に多くなったという話で、ただ、全く更新しない場合は44.3%で、実質的にこの8%分は更新しますという意味だと思いますが、52ページのほうを見ると、法定耐用年数に対して市の更新基準年数というのが決められています。法定耐用年数に従ってやるわけでないのであれば、この市の更新基準年数の目標値にしてしまったほうが分かりやすいと思いますが、そうではなく国で決められた指標として法定耐用年数があるということでしょうか。

**(青木経営企画課長)**

総務省の経営を分析する指標で、市民の皆様であるとか、議会等の説明用に一般的に使われる全国統一のものとして法定耐用年数超過管路率があり、鳥取県のホームページなどにも載っています。

参考としまして全体版の17ページをご覧ください。アセットマネジメントのことが書いてあります。呼び名のとおり資産管理ということになりますが、今、保有している資産を、例えば更新しない場合は老朽化がどういう形で進んでいくのか、法定耐用年数で更新をかけると資産の健全度がどうなるのか、独自の基準で更新するとどうなるのか、というのが17ページから20ページに記載しています。

20ページ表の上から2番目、更新基準年数に基づく更新事業(管路)があります。このまま今回の投資計画を立てていくわけではありませんが、あくまで今あるものをそのまま更新した場合、現在価値化をしてどれぐらいの金額が掛かるかを積み上げた表になります。更新基準年数は鳥取市の独自のものです。その中でも優先順位をつけてしっかりと事業のほうを進めていく計画としていますので、その辺りの考え方を目標の括弧書きでも示せたらと思いましたが、検討させていただきます。

**(戸荻委員)**

コスト縮減について、このアセットマネジメントや、更新年数、基準の考え方を独自のものを採用するなど、コスト縮減に取り組む計画があると思いますが、例えば2ページ、3ページの財政の予測の建設改良費とか維持管理費の中に、今の話ではコスト縮減の要素は取り組んでないということでしょうか。もしくは、取り込んだ上でこれだけ内部留保が減っていくということでしょうか。

**(青木経営企画課長)**

2ページの財政収支予測の場合のところですが、これはコスト削減を見込んでいます。ただ、収益的収支、事業の運営や施設の管理に関わる収支ですけども、物価上昇による動力費の高止まりや、設計や維持管理の委託も、人件費が昨今上昇しているので、委託費がかなり上昇してきています。そういったものを見込むと内部留保資金は平成30年に料金水準を算定したときとは想定が異なっています。これまでの経営努力はこの中に入ったうえで内部留保資金が減っていくという理解でお願いします。

**(戸荻委員)**

これまでも今後の予測の中で、コスト縮減するという部分も入れてあったと思います。要はこの位置づけがよく分かりにくくて、内部留保資金がこれだけ減ってしまうので13.5%の値上げが必要だと、この計画の構想の中に書くのであれば、今後の構想なので、これだったらこれぐらいの値上げが必要になるけど、先ほどあった自助努力の話で、こういう取組をすれば値上げ幅がこれだけで収められるからここを目指しましょう、みたいな話だったら何となく分かりやすいと思います。今この現状で13.5%はコスト縮減も取り組んだ上でこれだけの値上げが必要となるという数字だけだと、何のために書くのかというところを教えてください。

**(青木経営企画課長)**

どれだけコストがダウンできたのかが見比べられない、という趣旨の質問なのかなと感じています。基本的な個々の維持管理費であるとか、もちろんコストダウンを図りながら行っています。一番大きなところは建設投資の部分でどれぐらいコストカットができてきているのか、建設のコストカットができると今後の減価償却費が抑えられます。その部分を積み上げて示すことは可能になると思います。例えば、今、基幹管路の耐震化で、徳尾の古海の辺りの工事を行っていますが、これまでの計画を現況に合わせてしっかり見直しまして、大体1億ぐらい工事費の削減ができています。他にもいろいろ数千万単位で削減が見込まれる工事があり、そういった見直しを、6年度に外部に発注しています。江山浄水場系の配水管路の再構築ということで、こういった形でダウンサイジングを行うのか、コストカットができるのか等、そういったものを委託業務に出しています。それらが全部分かった時点で、料金改定が仮に必要な場合には、そういった資料も用い



てしっかり説明をしていく考えです。

**(戸荻委員)**

それは今やっている工事とか、直近で出した委託の設計の中での話ですね。それで例えば8年から17年までの建設改良費や維持管理費のところに、今の1億円削減できたという部分は反映されていますか。今後の工事も同じようなことをやれば、これぐらい削減できるだろうというのは反映されていますか。この試算の中にはそれは反映されていない感じなのかなと、受け取りましたが。

**(青木経営企画課長)**

そのとおりです。これから実際に工事する時点で反映される部分もありますし、一部をすでに反映してる部分もあります。

**(戸荻委員)**

であれば、当然その後に適切な時期に諮った上で決定しますとは書いてありますが、この頃に13.5%値上げする必要があると書いてあるだけなので、コスト縮減に取り組んで値上げ幅が何とか下げれるように努力もします、といった文言は入れたほうがいいと思いますがいかがでしょうか。

**(青木経営企画課長)**

分かりました。そういったこともしっかりと書き込むようにします。

**(松原委員)**

恐らくこれはシミュレーションモデルの詳細な説明がないんですね。ダウンサイジングのパーセンテージをどれくらいにするのか。人件費とか物件費の値上がりがどういうパーセントで行くか。という想定がシミュレーションモデルをつくった人たちの中にはパラメーターで入っていると思います。それを少し変えてもいいと思います。例えばA、B、C、Dぐらいのパターンでやってみて、それぞれの値上げがこれくらいになります、ということがあると、最適なところはここです、という説明になるかなと思います。ですので、もう少しシミュレーションモデルがどういう想定になってるのかというところが説明の中にあると皆さん納得されるのかな、感じました。

**(鈴木委員)**

11月1日から米子市のほうで上下水道を統合して上下水道局が設置されるというのがあり、統合の目的が上下水道の一体的な事業運営で効率的な経営や、激甚化する自然災害への対応強化を目指す、ということのようでした。鳥取市の下水道の経営戦略も見

てみたら、下水道のほうは組織統合として、組織の効率化と市民サービスの向上のため水道局との組織統合について検討を進めます、という形で何か記載されているようですが、この計画の中にはこういう下水道と同じような表現は記載されるでしょうか。

#### (武田水道事業管理者)

下水道との、例えば組織の統合は、様々な事業体でやっているところもあれば、やってないところがあります。それぞれ水道と一口に言っても上水と下水と全く性質が異なります。例えば事務所の場所、水源、あるいは下水の処理の仕方も千差万別です。米子市の場合は統合したほうがうまくやれるということで、今回組織統合されたと聞いています。

本市水道局の場合は、平成 27 年頃に組織を統合した場合のメリットについて研究しました。その結果は、さしたるメリット、効果がなく、統合はしないという結論ですが、できる協力は行っています。例えば、皆さんのところに届く下水道使用料の請求などは、水道の使用量を基に計算し、請求書の発行なども水道局で行い、送付している現状があります。

しかしながら、例えば工事 1 つ取ってみましても、上水と下水と同じ工事ができるわけでもなく、工法も違えば、管を埋設する深さ、例えば水道ですと 1 メートルもないぐらいのところに管を埋設した場合でも、下水はそれ以上に何メートルも地下を掘って、しかも横向きに穴を掘って工事を進めたりするなど、全く違います。最近はこの 4 月から国土交通省に上水道の所管が移管したことに伴い、国土交通省は上下水道一体化整備を決まり文句みたいに言っていますが、そこはもう少し丁寧に考えて、鳥取市にメリットがあればそういった検討もすべきと思いますが、現時点においてはメリットがあまり見えませんので、検討は行っていないのが現状です。

#### (湯口委員)

もしもの時のためのこと、10 年後、25 年後の先のこと、今、この瞬間に水を飲んでくれている人のことなど、色んなことを同時にされてると思います。私は基本的に水道水をいつも飲んでますが、ペットボトルの水を買う人も多いと思います。ガソリンと比べても多分ペットボトルの水のほうが高いと思いますし、たしか 2024 年で水道水が一番おいしいランキングで鳥取県が全国 1 位だったと思います。そのデータの基になっているのが、飲んでる人がおいしいと思っている率や、水道水をそのまま飲んでる率だったと思います。そういうのを例えば水道局だよりに掲載するとか、やっぱり数字で見るとペットボトル 3 本を 2 本にしようかなと思ってくれるかもしれません。そうしたらゴミも減るし、お財布にも優しいし、鳥取の水道がおいしいというのをみんなに知ってもらうチャンスなので、積極的に広報等をやった方がいいと思います。

前回の審議会で利き水体験に参加させていただきました。私はこの間、木のまつりでク

イベントをやらせてもらったのですが、ああいうところに出向いて、利き水体験等をしたら、水道に対する見方や、応援してくれる人が増えたり、地味なようだけれど、ゆくゆく値上げするとなった時や、何かいろんなちょっとした時に、ちっちゃいことかもしれないですが、何かいいように作用してくれるんじゃないかなと思います。やはり広報も大事で、先ほどの話も併せて少し先のことを考えて何かした方がいいと思います。

それと、今年の夏はものすごい暑く、水道をひねって出しっぱなしにしてもお湯みたいな水温になっていましたが、水質は大丈夫でしょうか。集合住宅だから熱いのか他の家は冷たいのか分からないですが、夏は飲むのは控えたほうがいいのかなと思ったりして、その辺は大丈夫なのでしょうか。

### (武田水道事業管理者)

鳥取県の水が消費者の中で非常に評判がいいというのは、今年の2月でしたか、某テレビのワイドショー的な番組の中で取り上げられ、それがまたネットニュースか何かに取り上げられ、すごく広まったと記憶していますが、そのテレビで取り上げられた元は、今年の2024年1月にパナソニックさんが独自に全国で調べられたということで、全国47の都道府県男女100人ずつトータル4700人にアンケートされて、自分のところで飲んでる水道はおいしいと思う人が何人いますかということで、鳥取県が一番多かったと、こういうことなのです。鳥取県ですので、市と符合するわけではないですけど、私も先ほどの話で利き水をした時においしいと言ってただけたという自負もありますし、それ以前にも昭和60年頃でしたか、全国30幾つの水道水がおいしい都市ということで、大変古いんですがその当時から鳥取市の水道水がおいしいということで選ばれたこともありますので、おいしいという部分では我々も自負をしています。某テレビ局で取り上げられましたとはなかなか書きにくいですが、おいしい水ということは事あるごとに書いていますし、もっとどんどん載せていこうかと思っています。

夏の暑い時期の話で、特に集合住宅の場合は受水槽に一旦水をためて、それを建物の屋上のタンクにポンプアップして、その屋上のタンクからそれぞれのお部屋に水を配るという構造が多いわけですが、当然天井の裏、屋上にあるタンクに太陽が当たるわけで、大変その中の水が熱くなります。したがって、そういった集合住宅等の場合は、蛇口をひねって出しっぱなしにしたとしてもなかなか冷えないと思われれます。戸建て住宅の場合ですと、水道管は地下を通っていますので、そこまで熱くはないにせよ、配水池からの配水する距離が長ければ長くなるほど、熱せられる距離が長くなるわけで、当然距離が長いほうが水温は高くなります。水温が高くなって水質が落ちるということはありませんが、そういった戸建ての場合では、少し出しっぱなしにすると若干水温は下がります。しかしながら、基本的には冷蔵庫で冷やしてから飲んでいただく以外にないのかなと思います。水道局でもあまりにも熱いところは途中で放水し、新鮮な水が行くような作業を実は行っていますが、なかなか集合住宅の場合は建物の構造上難しい。最近は集

合住宅でも直圧といいまして、タンクなしに地下の水道管からそれぞれの家に水を供給するような構造の建物もありますが、御迷惑をおかけしますが致し方ない部分があることは御了承いただきたいと思います。

#### (谷本委員)

用瀬ですが配水池が変わりまして、先ほどの話でうちは集合住宅ではない一戸建ての家ですが、地域の方と話をすると水源池が変わってから、特にこの夏の影響かどうかは分からないですけれども、水温がとにかくあたたかいです。魚料理は流し水ではできないぐらいで、長い時間水を出しても、あたたかい。温水器を使った熱いぐらいな感じで出てきます。季節が変わったら解消しましたが、そんなに場所は変わってない以前の水源池のときはそうではなかったです。

安全でおいしい水というと、小学生では生水を飲まないようにと、水道水をそのまま飲むことがあまり推奨されておらず、夏の間は魔法瓶みたいな大きな水筒を持って子どもたちは学校に行っています。本当に安全でおいしいならば、どんどん水を飲ませていいと思いますが、学校では水道水をそのまま飲むのは推奨されていないので、学校単位でもっと水道水でも大丈夫だというのはPRしてもいいのではと思います。

#### (安部委員)

先ほどのコストカットの話で、コストカットの話になると建設費の削減という方向に赴きがちなのですが、資材の物価上昇と、人件費が異常に上がっている。また、今、国交省のほう働き方改革で4週8休というのを大きく打ち出していて、会社のほうとしても、従業員全員4週8休週休完全2日制という制度をとっています。こうなると、今まで以上に年間60日ぐらい休ませないといけない中で、給料を減らすわけにもいかず、会社としては、なかなか利益が上がらない状況になっていまして、コストカットばかりに注視されると建設業者のほうは本当に立ち行かないというのがあります。ですから水道局も、本当にコストカットを目的とされる工事を出されるなら、設計計画段階で材料をコストダウンできる材料を使う、工期がしっかりとれる工事を出してもらって、安くできる工法をしっかりと計画を立てて出させていただく、ということをまず念頭においていただければと思います。

#### (谷口工務課長)

水道局の工事は、完全に週休2日制の経費を昨年度から100%盛り込んでいます。水道局の工事に携わる現場の方々が、高齢化してきたり、減ってきているという現状があります。そういった水道業者さんに少しでも若い方が入ってもらえるように、また、今後も水道局の工事を維持管理も含めてしっかりと行っていただけるような経費をきちんと盛り込みながら実際に工事を発注しています。資材のほうも、鑄鉄管の説明が先ほ

どありましたが、費用は安いが鋳鉄管と同等の耐震性がある、具体的には配水用ポリエチレン管と呼ばれる資材があります。そういった資材等も比較検討しながら水道業者さんには利益があり、水道局としてもコストカットにつながる格好で、持続して工事を行えるような水道を目指して実際やっていますので、御了承いただければと思います。

---

## ・その他

### (青木経営企画課長)

災害用の備蓄水の製作ということで、災害用備蓄水に関しまして令和元年に水道局の災害対策の取組をPRする目的で作っています。備蓄水は江山浄水場の施設見学や、自治会さんが防災訓練等をされる場合に無料配布しています。このたび、備蓄水の在庫が少なくなったことから、ボトルのラベルのデザインを鳥取市がイメージできるようなものにリニューアルして再度作成しました。製造日が10月23日でそこから10年間、2034年までの賞味期限となっています。

### (石黒委員)

先週、自治会の方で防災訓練を行いました。水道局に申請すれば何本か提供していただけるということですか。

### (青木経営企画課長)

ホームページ等で御案内していますが、皆さんに周知が足りないところもあります。今回1万本作っていますので、取りに来ていただくというのが前提となりますが、申し出いただいたら準備しますのでよろしくお願いします。災害に備えてということで、ボトルの裏に二次元コードを貼っています。水道局のホームページの、水道局の災害対策の取組、そういったものも案内していますのでよろしくお願いします。

### (石黒委員)

その辺り、市の危機管理課のほうでも防災担当者の会議があるので、連携をとっていただいたら非常にいいと思います。

---

### (松原会長)

審議はこれで終わりたいと思います。私のほうから一言挨拶がございます。私、この

審議会の会長を仰せつかって10年になりました。10年は鳥取市の会議の会則の中では1つの期限になっていまして、今日が私の最後の会になると思います。10年間ということで、私が入ったのが2015年になりますが、ちょうどそのときは、鳥取市の水道事業100周年が終わったときでした。先ほどお話ございましたが、非常に長い行政の中で水道事業が動いてきていると。それが今のおいしい水になっているということになりますが、その沿革を感じながらこの審議会に入らせていただきました。その後も、様々な場所で様々な震災や事故があり、水の大切さについてこの審議会の中でいろいろと話ができました。特に今回の能登半島の震災では、なかなか水が皆さんのところへ行かないと。下水道もまた直らないという、そういった状況でした。私も防災が専門でしたので、現地にも何回も行きましたが大変なことでした。水の大切さを感じた次第です。

一方で、鳥取側の地震災害の予測ですと西部、中部、そして東部と、次は恐らく東部だろうと言われていまして。そのシミュレーションによると、鳥取東部の震災では上水道の完全復旧まで1か月ぐらいかかる、恐らく1週間、2週間は広域で被害が発生するだろうと言われていまして。これに備えた防災対策あるいは地震対策、耐震化は大変なことだと思いますが、今日説明のあった長期経営構想の中にそれも反映されているとも感じた次第です。そうしたことで、私もいろいろ考えさせていただくことがたくさんありましたが、皆さんの意見もいろいろお聞きして、熱心に御議論いただいたということでありまして。皆様にはこれからまた審議委員として活躍されると思いますが、どうぞ鳥取市の水を見守っていただければと思います。長い間ありがとうございました。

### ・水道事業管理者挨拶

#### (武田水道事業管理者)

本日は長時間にわたりまして熱心な御議論ありがとうございました。今、松原会長から御挨拶がありました。松原会長におかれましては、10年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。また、ほかの委員さんにおかれましても、今回の委員の任期は、委嘱状を出させていただいたのが令和4年の11月ですので、2年間の区切りになります。引き続きまた審議会の委員になっていただける方もいらっしゃると思います、引き続きよろしくお願ひします。また、今回でいろんな事情で委員を降りられる方もおられると思います。本当にありがとうございました。お世話になりました。

毎回申し上げていますが、この審議会の委員さんは、我々水道事業の言わばよき理解者だと私ども勝手に理解していますので、今後も様々な場面で我々の足らざることを補っていただければと思います。また、先ほど水道の宣伝を、ということでもいろいろ御意見いただきました。もちろん私ども頑張りますが、委員さんにおかれましても、色々な部分、場面で、そういった広報といいますか、宣伝に御協力いただければと思います。

本当に長い間ありがとうございました。

この長期構想は新しい委員さんの下でもしっかりと議論しまして、本日も色々御意見いただきましたが、まだまだ足らざるところもあると思いますので、十分検討し、今後の10年間の構想としてまとめていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

・閉会